

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、多様性のある児童が数多く在籍する全校児童 101 名の小規模校である。外国にルーツのある児童が 37 名、障がいのある児童が 13 名、本校の教育理念に希望を抱き、他校区からの学校選択制による在籍児童が 20 名いる。マイノリティの児童が数多く在籍する多様性あふれる学校として、様々な体験学習の取組を推進し、すべての子どもの人権が大切にされる学校づくりを目標にしている。また、人権尊重の精神を基盤にして、一人ひとりの子どもに寄り添う教育活動を展開しながら、児童の自尊感情や自己肯定感を高め、互いに学び合う学習を展開しながら学力の向上を図っている。それらの取組の結果、児童は落ち着いて学習に取り組むことができている。

しかし、昨年度の小学校学力経年調査の結果から、基礎・基本の定着に課題があり、応用力を必要とする問題を解く力において弱点があることが考えられる。また、子どもたちの自尊感情・自己肯定感は年々高まってきている。自ら学びに向かう力や最後まで粘り強く取り組む姿勢を育むために、さらなる向上を図る必要があると考えている。

本校のめざす子ども像である、①自他を大切にし、ともに高めあう子を育てる（豊かな心をもつ子）、②めあてをもって学習に取り組み、ねばり強くやり抜く子を育てる（ねばり強く学ぶ子）、③自らの健康を守り、たくましく生きる子を育てる（元気な子）の 3 点について引き続き取り組む。

本校は、家庭背景に課題を抱え、基本的生活習慣が定着せず生活リズムを確立できないため、登校支援を要する児童が数名いる。また、家庭での学習習慣が確立しない等に起因する低学力も大きな課題である。さらに、保護者からの児童への関わりが希薄なために、称賛や共感の言葉がけが少なく、自尊心の低さや愛着にも課題を抱える。そのため、教職員との信頼関係の構築までに大変長い時間を要する。

学力を向上させるには、話し合い活動の充実と自尊感情の育成が重要であると考えられる。話し合い活動の取組としては、自分の考えと友だちの考えを比較することで、多様な考え方を知り、共通点や相違点に気づくような教育活動を行う。また、地域の諸機関や企業で働く人たちから学んで考えたことを言葉や絵、音、身体表現など様々な方法を用いて、友だちに自分の考えを広めるようにする。そして、課題解決のために、一人ひとりが自分の考えを出し合い、友だち同士で共に考えを創り上げながら、納得解や最適解を見い出す協働的な学びを進めていく。

自尊感情・自己肯定感を高める取組としては、自分や友だちの発言が認められる雰囲気作りを意識した授業づくりに努める。また、「エビデンスベースの学校改革」フォローアップ校となり、ポジティブ行動支援（PBS）の実践を学校全体で共通理解を図って進める。学校生活の中でトラブルが起きた場合には、クラスの目標やルール・マナーについての前向きな話し合いを行いながら、よりよい集団へと導いていく。自分や友だちの間違いや失敗を肯定的に修正できるように意識されることにも継続して取り組む。

学習者用端末を活用した調べ学習、プレゼンテーション資料の作成・発表などを積極的に進めたことにより、子どもたちの学習意欲が高まる成果が見られている。また、「こころの天気」を前年度よりも活用し、いじめの早期発見に取り組んでいく。ICT の活用については、今後も重点的に取り組む。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和8年度までに、小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を95%以上にする。
- 令和8年度までに、大阪市学力経年調査（3～6年生）や校内調査（1～6年生）における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を75%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和8年度までの小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を30%以上にする。
- 令和8年度までに、小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を75%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 学習者用端末の環境を生かし、デジタルドリルや協働学習支援ツールを活用することで、子どもの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け、授業日において学習者用端末を原則として1回以上活用する。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を81%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を64%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を34%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を75%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を94.3%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

※年度末に記入する（下記の内容は R6 の総括）

【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 80 %以上にする。
⇒「思う」と回答した児童の割合は、80.5 %であり、目標に達した。（R5:79.5%）

○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 78.6 %以上にする。
⇒肯定的な回答は、63.9 %だったので、目標に達しなかった。（R5:78.5%）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 30 %以上にする。
⇒「当てはまる」と回答した児童の割合は、33.8 %であり、目標に達した。（R5:28.9%）

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 71 %以上にする。
⇒「好き」と回答した児童の割合は、74.6 %であり、目標に達した。（R5:70.5%）

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50 %以上にする。
⇒ 1.4 %であり、目標に達しなかった。

○第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 94.2 %以上にする。
⇒ 100 %であり、目標に達した。（R5:94.12%）

(様式 2)

大阪市立北津守小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 81 %以上にする。 ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 64 %以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 2, 人権を尊重する教育の推進】</p> <p>多様な体験活動や学習を通して人権教育を推進し、児童の豊かな感性と人権を大切にして行動できる態度を養う。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>年間の人権教育計画を基に、学年に応じた知識、人権感覚を身に着けられるように人権学習や地域とのふれあい活動等を行う。</p> <p>また、「北津守 3 つのゴール」など各学級の実態に合わせて、児童の自尊感情を高められるような取り組みを行う。</p> <p>そのために職員向けの研修や意見交流なども行う。</p>	

取組内容②【基本的な方向 2, 多文化共生教育の推進】	
多文化共生教育を推進するために、「民族学級」や「中国学級」「多文化共生学級」の活動を行う。また、関係諸機関と連携して、帰国・来日等の児童や外国にルーツのある児童が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導を進める。	
<p>指標</p> <p>年間計画通りに「民族学級」「中国学級」「多文化共生学級」を推進する。また、活動内容を全校児童に周知し、世界の色々な国や文化を発表させる機会を設ける。</p> <p>関係諸機関と連携して、必要な児童に対して適切に日本語指導を実施する。</p>	

指標

いじめや不登校,問題行動などに関する情報と指導に関し,児童の状況を適切に把握し,抱えている問題に対してより丁寧にかつ適切に支援が行えるように教職員間で全児童を見守る意識をもつ。月に1度の学年連絡会を行い,学期にスクリーニングシートも活用していく。早急な場合は職員朝会等で情報共有をすることで全児童に適切な対応ができるようにする。

取組内容④【基本的な方向1, 安全・安心な教育環境の充実】

学校安心ルールに基づいて,日常の挨拶や時間を守ること,相手の気持ちを考えた言葉掛けの仕方を意識させる。

指標

児童が自ら考え行動できるように,日常的な挨拶に向けた取組や言葉掛けを行う。また,チャイムなどで意識的に行動できるように取り組む。

取組内容⑤【基本的な方向1, 安全・安心な教育環境の充実】

安全・安心への意識を高めるために防災・減災教育を推進する。

指標

年間計画に基づき,年3回の台風,地震・津波,火災の避難訓練や防犯,交通安全教育を実施し,緊急時に対応する能力の基礎を養い,自主的に考えて行動できるようにする。

校内研修としての防犯訓練も実施する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立北津守小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 34 %以上にする。 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を、75 %以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4 , 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>道徳の学習において、学力の柱となる思考力や判断力、表現力や学びに向かう力、人間性などを養うことで学習意欲を向上させるための基盤を作ることができるようとする。</p> <p>指標</p> <p>児童一人ひとりが道徳の授業において価値理解や人間理解、他者理解を深めながら自己理解につなげることで学習意欲の向上を図ることができるように研究・研修を進めていく。</p> <p>各学年で 1 回ずつの研究授業を行い、討議会を設定し、取り組んだことの振り返りをし、次に生かせられるように分析・検証をする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 4 , 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>インクルーシブ教育の充実と推進を図り、児童が落ち着いて学習に取り組める環境づくりをする。</p> <p>指標</p> <p>基礎的環境整備を学校全体で共有し、全児童が学習に集中して取り組めるようになる。合理的配慮の視点から個別の支援計画・指導計画を作成したり、研修を行ったりすることでどの教員も共通した支援ができるようになる。</p>	

取組内容③【基本的な方向4,誰一人取り残さない学力の向上】
教育活動のための時間を確保し,学習基盤をつくるようとする。

指標

ぐんぐんタイムを活用して週2回算数チャレンジ・マイクロステップスタディを実施し,算数科・国語科における基礎・基本の定着をはかる。

取組内容④【基本的な方向4,誰一人取り残さない学力の向上】
児童の体力・運動能力向上のための取り組みの充実を図る。

指標

新体力テストや体育科学習から実態把握につとめ,基礎体力を養うために児童の課題に沿った「運動週間」を年間3回以上設定し,児童の運動能力向上への意識を高める。

取組内容⑤【基本的な方向4,誰一人取り残さない学力の向上】
外国語(英語)を聞き取る力やコミュニケーションへの関心・意欲の向上のための取り組みの充実を図る。

指標

4・5・6年生で「英検ジュニア」の英語能力調査を実施する。また,学校教育アンケートにおいて「外国語(英語)の学習は楽しい」の質問に対する児童の肯定的な回答の割合を75%以上にする。

取組内容⑥【基本的な方向4,誰一人取り残さない学力の向上】
情報を収集・整理・分析したり,周囲の人と意見交流・協働したりしながら児童の学習意欲の向上に努める。

指標

児童の学習意欲の向上のためにICT機器を効果的に活用する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立北津守小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった						
年度目標	達成状況					
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況					
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50 %以上にする。 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 94.2 %以上にする。 						
<p>取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>学力向上及び生涯にわたって学び続ける力の育成のため、授業やモジュールタイムにデジタル教材を活用した自学自習等を取り込むことで、ICT 利用の習慣化を図る。</p> <p>指標</p> <p>ICT 機器（デジタル教材、動画教材等）や学習者用端末を利用した復習、学習者用端末を利用した情報検索やグループワークツール等を週 1 回以上実施する。</p>						
<p>取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>会議の精選や組織として効率よく機能できる会議の進め方、セット時刻の徹底、土曜参観振替取得など学校独自で抜本的な改革を進めていく。</p> <p>指標</p> <p>「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 86 %以上にする。</p>						
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析						
次年度への改善点						